

2学期も残りわずかとなりました。今学期も新型コロナウイルスの流行によって、感染症対策を強化したり、様々な行事を縮小したりなど大変な思いをしたことと思います。その中でもできることを見つけながら前向きに頑張っている姿をみることができました。冬休みも体調には気をつけて、良い年を迎えましょう☆



「生理の貧困」対策プロジェクト・ながさき～ナプキン無料配布～

様々な賛同団体のクラウドファンディングによって、本校でも2022年1月～3月までモデル校としてナプキンの無料配布を実施することとなりました。詳しくは下記を見てください！

『月経』は、多くの女性が経験するものです。
月経年齢：12歳頃～50歳頃まで
月経周期：25～38日間
月経期間：3～7日間 ※個人差あり

計算すると…



12歳 → 50歳

一生のうち月経出血中の日

約2300日

計算すると…

2時間おきにナプキンを交換すると…
1日あたり100～150円
1ヶ月あたり500～1500円

一生のうち月経にかかる負担

約35万円

世界にはこの約35万円のお金を月経用品に当てることができない女性があります。その問題こそが「生理の貧困」です。

「生理の貧困」の原因

1. 経済的な貧困
2. ネグレクト（育児放棄）や経済的暴力によるもの
3. 保護者の理解不足によるもの

生理の貧困 当事者の声



親からの仕送りで家賃を支払っています。生活費はバイトでどうにかするつもりだったけどコロナでシフトがあまり入れてもらえないです。食費が優先的になくなるから生理用品は余裕がある時にしか買えないです。 20代 学生

シングルマザーで子どもを育てています。子どもにお金がかかるので、自分のものは極力買わないようにしています。もちろん生理用品もです。 30代シングルマザー



今は大人だから生理用品を自分で買うことができるけど子どもの頃はお母さんがナプキンを「1日にそんなに使わないで」とあまり買ってくれなくてトイレペーパーをぐるぐるにしたのをナプキンみたいにあてていました。今もそういう辛い思いをしている子がいるなら悲しいなと思います。 30代 会社員

「プロジェクトの内容」

生理の貧困で困っている女性がナプキンを手に入れられる
性教育や社会支援情報など
貧困のままではないための次のステップをご案内する



トイレペーパーを必要な時に必要なだけ使用できるように、ナプキンも月経量に応じて使用できる。性教育の情報・社会支援情報の提供を行い、貧困のままではないきっかけを。

「本校での取り組み」

※2022年1月～3月（試行期間）

＊各トイレ個室にナプキンを設置

ナプキンを置いている個室には左下のロゴシールを貼りますので、必要時に使用してください。補充などは美化委員や保健委員が行います。

＊性教育講演会

「生理の貧困」対策プロジェクト・ながさきに関わっておられるやすひウィメンズクリニック院長の安日泰子先生による講演を実施します。「生理の貧困」のみならず、「性について」よく考えてみましょう。

＊必要な情報提供

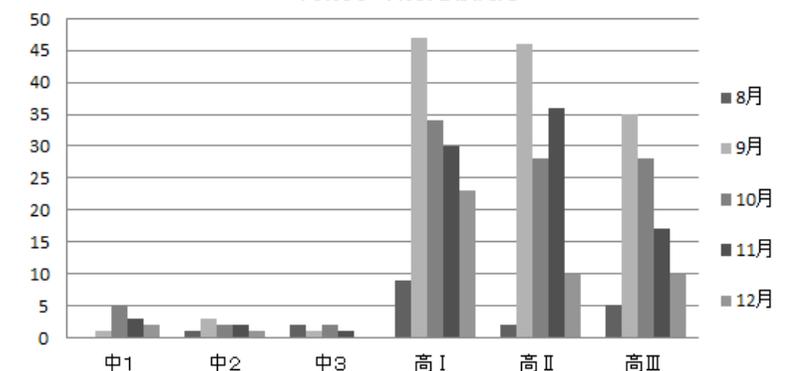
性に関することについて、この機会にいろいろな情報を提供できたらと考えています。また、みなさんが現在の状況などを知って、一人の女性としてどう生きていくか、また自分には何ができるのだろうかと一緒に考える時となれば幸いです。

世界における「生理の貧困」対策

 スコットランド 必要な人に月経用品を無料提供できる法が可決された	 アメリカ合衆国 一部の州の学校で無料配布	 ニュージーランド 全ての学校で無料配布
 フランス 全ての学校で無料配布 月経用品の税の軽減	 韓国 一部都市の学校で無料配布 月経用品の税の軽減	 イングランド 全ての小中学校で無料配布

保健室からのお知らせ

月別学年別利用状況



2学期の保健室利用状況は、高校生の利用が多く、特に夏休み明けの9月がどの学年も増えていました。長期休み明けの生活リズムの乱れが影響しています。冬休み明けも気をつけましょう。

『生理の貧困』対策プロジェクト・ながさき

- ながさき女性医師の会
- NPO法人DV防止ながさき
- BPW長崎クラブ
- 長崎性教育コミュニティアスター
- モッシュ (もうセクハラを許さない女たちの会・ながさき)
- 長崎法人やすひウィメンズ・ヘルスクリニック